令和７年度　第３回北海道 Society5.0 推進会議　議事録

日時：令和７年８月 27 日（水）10:00～12:00
場所：北海道庁本庁舎９階　経済部会議室
（オンライン開催）

【北海道経済部ＡＩ・ＤＸ推進局　石川局長】

北海道経済部ＡＩ・ＤＸ推進局石川です。本日はありがとうございます。令和７年度第３回北海道 Society5.0 推進会議開催いたします。初めに、主催者を代表しまして、次世代社会戦略監の大矢から、開会の挨拶をさせていただきます。

【北海道　大矢次世代社会戦略監】

大矢です。皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。第３回目の北海道 Society5.0 推進会議ということですが、今年は、次期北海道 Society5.0 推進計画の審議をいただいているところでありまして、引き続き本日もよろしくお願いします。

前回、７月に第２回の会議を行いまして、次の計画の方向性について、議論いただききました。おさらい的に申し上げますと、皆様から、ＡＩの活用やロボティクスなど次の５年間を見据えた施策のお話のほか、ウェルビーイング指標の活用といったＫＰＩ関係の御意見を頂きました。それから、計画案の作成に生成ＡＩを活用するのが良いのではないかといった御意見も頂いたところです。我々が作成したたたき台を事前にお送りして、御意見を頂いておりますが、本日の会議では、計画骨子案に対する御意見を頂ければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

今回は、オンライン開催ということで、リアル開催に比べると、やり取りがスムーズではないことを踏まえて、時間は２時間きっちり取っておりますので、丁寧な議論をしていただければと思っております。昨日の国のＧＸ実行会議でも、「データセンターを地方へ」というようなことを明確に打ち出されております。このように、北海道もデータセンターが集積しつつある地域ですので、この環境をもとに、特に、今回の資料４でお示ししました「めざす未来社会の姿」が、今のこの現状を踏まえると、このままで良いのか、もっと変えた方が良いのかなど、そういったところの皆様方の御意見を頂ければ幸いですので、夢を語ると申しますか、そういった会議にしていただければと切に思うところです。そういったお願いをいたしまして、簡単ですが、御挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【石川局長】

それでは、本日の出席状況については、出席者名簿をお配りしております。出席者名簿の２番目、千歳科学技術大学の小松川委員は欠席となっておりますが、急遽、スケジュール調

整いただきまして、本日参加いただけることになっておりますので、資料の修正は間に合いませんでしたが、出席ということで御報告させていただきます。また、合わせて、オブザーバーの皆様にオンラインで御参加いただいております。

以上、御報告させていただきまして、以降の議事の進行につきましては、川村座長にお願いしたいと思います。川村座長、お願いいたします。

【川村座長】

皆さん、おはようございます。北海道大学の川村です。

今回は第３回目の北海道 Society5.0 推進会議ということで、いよいよ、骨子案が出来あがってまいりました。これまでの第１回目、第２回目の会議では、少しざっくばらんな形で、皆さんに、色々な御意見を頂いたと思いますが、それらの意見がある程度具体的に反映された案ができたということで、これを固めていく段階に入ってまいりました。この先は、残り２回の北海道 Society5.0 推進会議があるので、今回、色々な御意見を頂いて、さらにこれをブラッシュアップさせて、今年度中に完成させるという流れになると思いますので、ぜひ、活発な御議論と御意見を頂けたらと思っております。

それでは、初めに議事の（１）本日の会議について、事務局から御説明をよろしくお願いいたします。

【北海道経済部ＡＩ・ＤＸ推進局ＤＸ推進課　山田補佐】

事務局のＤＸ推進課の山田です。

「資料１　本日の会議について」です。次のページをお開きください。本日の議事の内容につきましては、主に１点となっております。事務局から、第２期北海道 Society5.0 推進計画の骨子案について御説明させていただき、その後、意見交換を行っていただききますが、本日は、（１）から（４）に記載しましたとおり、計画の記載箇所に合わせて４つのパートに分けて意見交換したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本会議につきましては、オンライン開催のため、発言される場合には、画面下にある「リアクション」から「手をあげる」を選択していただきますと、事務局から指名させていただく流れとなりますので、よろしくお願いいたします。また、事務局への連絡事項などがあれば、随とき、チャットに書き込んでいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。以上で説明を終わります。

【川村座長】

ありがとうございます。骨子案ということで、少し分量があるので、そこは小分けにしながら議論を進めます。

それでは、議事の（２）第２期北海道 Society5.0 推進計画骨子案について、事務局から、御説明をよろしくお願いします。

【北海道経済部ＡＩ・ＤＸ推進局ＤＸ推進課　村田課長】

ＤＸ推進課の村田です。私から、第２期計画の骨子案について御説明させていただきます。まず、資料２が、第２期計画の骨子案となります。

なお、この内容は、事前に御意見を伺うために、今月 14 日に皆様へ送付した骨子案のたたき台と同じ内容となってございます。また、資料６が、「現行の第１期計画からの変更点」や、「骨子案に対して、委員の皆様から事前に頂いた御意見、その御意見に対する事務局の考え」を記載しているものとなります。

このあと、資料６の内容を中心に御説明させていただきますが、資料６では、掲載している骨子案が小さく見えにくいため、共有画面には資料２を写した状態で御説明いたします。

また、お時間の都合から、どうしてもポイントを絞った説明となります。このため、お手元で、２画面や紙媒体などによりまして資料６も御覧いただける方は、平行して資料６も参照いただきたいと思います。それでは、資料２に沿って、御説明いたします。

通常、骨子案と言いますと、目次のような、構成する主要な項目を列挙して、全体の骨格程度をお示しするのが一般的ですが、第２期計画は、前回推進会議で御議論いただきましたとおり、計画書のスタイルを大きく変更する方針で進めておりますことから、完成形がイメージしやすくなるよう、かなり最終的な計画案に近い形で作成いたしました。

ただし、本日、御議論いただく「めざす未来社会の姿」を踏まえて、今後、検討いたします「具体の施策」や「評価指標」の部分につきましては、記載がないものとなります。この部分は、次回の第４回推進会議でお示ししたいと考えております。

また、全体を通して、出来る限り短い文章で記載し、箇条書きで読みやすい文章量を意識して作成していますので、本日は、記載内容に加え、スタイルや文体など、様々な観点から御意見を頂ければと考えていますので、よろしくお願いします。

それでは、表紙をめくって１ページですが、目次は、後ほど、別資料で御説明しますので、２ページの「はじめに」を御覧ください。「１　策定趣旨」につきましては、第１期計画では長文でしたが、第２期計画は、構想の実現に向けて第１期に引き続き策定するという趣旨のほか、ポイントを絞り記載しております。この部分に関しましては、和田委員から、事前に御意見を頂いております。

二つ目のポツの「④データの利活用」と「⑤基盤整備」について、基盤があって初めてデータの利活用が実現するから、順番が逆ではないかという御意見です。水産業において、データ連携基盤が整備されていないため、データの利活用が進んでいないということです。

これにつきまして、事務局としましては、①～⑤の番号は、各施策を施す順番を示すものではなく、北海道 Society5.0 の実現に向けて必要となる施策を、分野や性質・内容を基に、５つに区分しただけのものですので、現行計画からの連続性にも鑑みて、このままにしてはどうかと考えております。

和田委員の御意見であるデータ連携基盤の整備は必要なことと思いますので、これを推

進するための施策について検討したいと考えております。

和田委員からは、これに関連しまして、右下の図について、中段の「人・暮らし」、「地域・行政」、「産業」の区分が、本文の①～③の「暮らし」、「産業」、「行政」といった区分と文言が異なり、また、⑤の「基盤整備」に相当する記載がない。後に出てくる、第２期計画としての①～⑤の５つの施策の柱の図とも併せて、整合を図とはどうかという御意見もございました。これにつきましては、右下の図は、構想に掲げる北海道 Society5.0 のイメージであり、構想の文言をそのまま使用しているもので、施策の柱とは異なるため、構想に掲げる未来社会の図であることが明確になるよう、「１　策定趣旨」の一つ目のポツの「概ね 10 年後の未来社会『北海道 Society5.0』」の後に「(下図)」と入れるとともに、図のタイトルを修正したいと考えております。

なお、このように、修正したいと考えていると説明した部分については、本日、特に御意見がなければ、次回推進会議でお示しする計画素案に反映し、改めて皆様に御確認いただきたいと考えております。

次に骨子案の「２　位置付け」、「３　推進期間」についてでございますが、前回推進会議で御議論いただきましたとおり、現行計画を踏襲したものとなってとおります。

次に「第１章　本道を取り巻く情勢」でございますが、３ページと４ページは、「１　直面する課題と情勢変化」となります。まず「直面する課題」については、道の最重要課題に限定して、(1)人口減少・少子高齢化、(2)強靱化、(3)温暖化に絞り込むとともに、(4)経済・社会情勢の変化として、前回推進会議で御議論いただいたＡＩ、経済安全保障、脱炭素化の三つの内容を記載いたしました。

なお、それぞれ右の図は、今後、関係部局へ相談するなどして、より良いものがあれば、差し替えたいと考えています。５ページは、「２ 国の動向」でございます。見た目は変わっておりますが、概ね第１期計画に記載されていた内容を維持した上で、近年のＡＩ政策の推進などについて加えております。この部分につきまして、西野委員から、各市町村のＤＸ推進計画の参考となっている、2020 年 12 月に国が策定した「自治体ＤＸ推進計画」を追記してはどうでしょうかという御意見を頂いており、御意見のとおり、「(3)行政のデジタル化」の部分に、「自治体ＤＸ推進計画の策定」を追記したいと考えております。

次のページは、前のページで、国の第５期科学技術基本計画で「Society5.0」が提唱されたと記載していますので、これを受けまして、コラム的に、Society5.0 を説明するページを設けたというものとなっております。次のページからは第２章となり、「北海道 Society5.0 の実現に向けた基本的な方針」となります。「１ 基本理念」と「２ 取組方針」は、前回推進会議の議論などを踏まえまして、第１期基本計画の内容を踏襲した上で、全体をビジュアル的な記載にして文章を減らし、右下に縦書きで「脱炭素化」に関する記述を加えております。委員の皆様からは、例えば、「１ 基本理念」のブルーのところに、「IoT やビックデータ、ＡＩなどの未来技術」とございますが、このような部分について、記載事例として、より適切なものがあるなどの御意見も頂けるとありがたいと考えております。

なお、内閣府では、昨年度、「ＡＩ、IoT や自動運転、ドローン等の未来技術」と記述したものもございますが、これまで、委員の皆様から、データの重要性に関する御意見を多数頂いておりますので、ビックデータは残した方が良いのかなど考えているところでございます。

また、「２　取組方針」の部分で、和田委員から、２ページの策定趣旨のところと同様、④と⑤の順番が逆といった御意見に加え、①～③と、④、⑤の関係性がわかりにくいという御意見を頂いております。

順番につきましては、先ほど御説明しましたとおり、各施策を施す順番を示すものではないため、このままにしてはどうかと考えておりますが、施策の分野で区分した①～③と、各分野横断的な取組である④、⑤について、相互の関係性がわかりやすくなるよう、図形の表現を工夫する修正を加えたいと考えております。次のページの概念図については、前回推進会議での御議論を踏まえまして、本道が抱える課題を表現した雨雲について、コロナの拡大を削り、インフラ老朽化やサイバーセキュリティー問題の深刻化を追加するなど、一部を修正しております。この図に関しまして、和田委員からは、第１期のアップデートではなく全面改定してはどうでしょうかという御意見がございました。前回推進会議での御意見を踏まえて雨雲の項目を修正・追加したところですが、更なる修正などを行うか、又は全面改定するか、本日、皆様の御意見を伺いたいと考えております。

次のページは、具体的な施策を記載する第３章となります。第３章は、５つの施策の柱ごとに、複数の小項目を設けて、その小項目ごとに、「めざす未来社会の姿」と「主な施策」を記載したいと考えておりますが、本日の、この９ページは、「①暮らし」の小項目の一例として、「医療・福祉」の分野に関して、第１期計画に記載している「めざす未来社会の姿」と「主な施策」をそのまま用いた、「記載イメージ」を記載しているというものになります。体裁・レイアウト、ボリューム感などについても御意見があれば頂きたいのですが、本日は、特に、小項目ごとに記載する「めざす未来社会の姿」について御議論をいただきたいと考えておりまして、この部分は、この後、別資料で御説明いたします。

なお、西野委員から、「③行政」の分野に加える「めざす未来社会の姿」の案を頂いておりますので、別資料で改めて御報告させていただきます。

また、「主な施策」については、本日の御議論を踏まえまして、次回推進会議で素案として提示させていただく予定でございます。

なお、川口谷委員から、農業分野に関して、食を守るためには大規模化や異業種参入は必須であり、農業分野での推進を明確に示すよう御意見がございましたので、次回、具体の施策案を示す際に、お示しさせていただきます。

次の第４章でございますが、10 ページは、「推進体制」と「道の役割」を記載してございます。「１　推進体制」は、簡素な記載にしていますが、現行計画を概ね踏襲する内容でございます。「２　道の役割」は、「全庁横断的な会議を新たに設置する」など、すでに対応を終えた役割を削除した上で、前回推進会議で、量と質の向上が必要とされたオープンデータ化

に関し、道の役割として新たに、「オープンデータ化とデータの利活用の一層の促進」を追加しています。

このページの右側の図について、佐々木委員から、大学等研究機関と企業・団体の間も連携関係があるので矢印を入れた方が良い。また、リカレント教育などを含めて、研究機関と企業間の連携をもっとダイナミックに定義することを希望するという御意見を頂きました。事務局としましては、御意見どおり、大学等研究機関と企業・団体間との間に相互矢印を入れるとともに、御意見にはありませんでしたが、行政機関と道民の間にも、それぞれ相互矢印を加えたいと考えております。

また、リカレント教育等につきましては、大学等研究機関に期待する役割として追加したいと考えております。

次の 11 ページでは、計画策定後の進捗管理と、成果指標となっておりますが、成果指標につきましては、本日の御議論を踏まえて「めざす未来社会の姿」の案を固める作業と連動させながら、また、前回までの御意見の反映も含めて、今後検討することとしており、その案は、次回推進会議において提示させていただく予定です。

最後のページですが、朱書きで「参考資料へリンクする二次元コードを記載」と付記しておりますとおり、用語解説や策定経過、構想自体は、第２期計画の本体には添付せず、道庁ホームページの計画とは別箇所に掲載しているページにリンクする二次元コードを記載することで考えております。

以上、資料２と資料６の説明でございました。続きまして、資料３でございます。これは、目次ベースで、現行の第１期計画と骨子案を比べた資料となっており、変更点を右側に記載しております。変更点は、資料２の説明の中で触れましたほかは、重複して記載のあった部分を統合したり、新型コロナ関係を削除する内容となってございます。この後の議論の参考として、御覧いただきたいと思います。

次に資料４でございますが、これは、私どもでは、北海道で Society5.0 の実現に向けて、あるいはＤＸを推進するに当たってと、非常に強い追い風が吹いていると考えておりまして、それが、この５つの要素でございます。電力は、道内に豊富な再生可能エネルギーが存在しており、送電インフラの増強も進んでおります。通信は、北海道は北米や欧州に国内では最も近いという地理的優位性から、通信網の整備が期待されます。ＡＩは、全国で唯一、内閣官房がＡＩ北海道会議を設置し、規制改革等を推進していこうとしています。こういったことから、ＡＩの研究開発やＡＩの利活用による地域課題の解決に貢献することが期待されます。半導体は、ラピダス、次世代半導体製造拠点が立地し、これを核としたサプライチェーンの構築などが期待されます。また、データセンターは、豊富な再エネや冷涼な気候などの立地優位性から、多くのデータセンターの立地が進展しています。

これらの要素は、本日御議論いただく「めざす未来社会の姿」に大きく影響を与えると考えましたので、参考として配付させていただきました。

なお、朱書きは、骨子案に対して事前に御意見を伺うために送付した８月 14 日版からの

変更点となります。

次に、資料５ですが、資料２の中で御説明した第２期計画の「第３章 北海道 Society5.0 の実現に向けた施策」の部分におきまして、５つの施策の柱ごとに、複数の小項目を設けて、その小項目ごとに、「主な施策」とともに記載する「めざす未来社会の姿」について、本日、御議論いただくために用意した資料となります。

資料の一番左側に、縦書きで「５つの施策の柱」を記載しておりますが、その右横に、縦書きで「(1)医療・福祉」など、第１期計画における小項目を記載しております。
更に、その右側の緑色のところに、第１期計画における「めざす未来社会の姿」を記載しており、これをベースに、水色のところに修正案や追加案、あるいは削除するといった変更案を記載しております。この水色のところに記載している案は、４ページの下の二つが、西野委員から事前に頂いた追加案で、そのほかは事務局として考えた案となっています。

本日、特に、この「めざす未来社会の姿」の更なる修正、追加など御意見を頂きたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

なお、６ページ以下は、本日の御議論の参考となるよう、チャットＧＰＴで作成した「めざす未来社会の姿」を添付しておりますので、参照いただければと思います。

次に資料７でございますが、これは、第１回、第２回の推進会議におきまして、第２期計画に関して皆様から頂いた御意見をまとめた資料となっており、一番右側に、対応状況を記載しています。

頂いております御意見が、概ね次回推進会議でお示しする予定の「具体の施策」や「成果指標」に関するものですので、対応状況の欄には、「今後、改めて提示します」と記載しているものがほとんどですが、例えば、４ページの No.14 につきまして、川村座長から、木を使った概念図の雨雲に関する御意見を頂いておりましたので、これを今回の骨子案で反映しましたという記載もございます。

お時間の都合もございますので、この資料は後ほど御覧いただければと思いますが、No.18 のところになりますが、入澤委員から、現行計画を作ったときのメンバーに意見を聞いてみたいという御意見を頂いており、今月 14 日に「次回会議までに聞き取りを実施し、結果をお示しする予定です。」と対応状況を入れて事前に委員の皆様にお配りしておりました。先週、この聞き取りを終えましたので、本日、資料８として、このヒアリング内容をお配りしております。

なお、４名の職員から聴取しましたが、個人名は付してございませんので、御了承願います。１ページ目ですが、ヒアリング結果のポイントとして、５つ上げてございます。左側の緑部分が回答内容、右側の水色部分が第２期計画策定への反映に対する事務局の考えを記載しております。

まず AI の活用に関して、次期計画に AI の活用を盛り込むべきといった回答などがございました。これにつきましては、前回推進会議でお示ししました次期計画策定の方向性において、次期計画には「AI の活用」に関し必要な施策を盛り込むこととしており、具体の施

策案については、次回推進会議で提示させていただきます。

次のデータの利活用に関しては、かなり多くの回答がございまして、データの利活用を進めるべきという趣旨です。これにつきましては、今回提示しました骨子案におきまして、道の役割として「オープンデータ化とデータの利活用の一層の促進」を明記したところでございます。また、具体の施策案については、次回推進会議で提示させていただきます。

次に人材の育成・確保に関しまして、これも推進すべきという趣旨の回答がございました。これにつきましても、前回推進会議でお示ししました次期計画策定の方向性において、次期計画には「関係者を巻き込みDXを推進出来る人材の育成・確保」に関し必要な施策を盛り込むこととしているところで、具体の施策案につきましては、これ以外の人材の育成・確保に関するものも含め、次回推進会議で提示させていただきます。

また、次の段には、「分かりやすい内容とする配慮」と記載しておりますが、前回の計画策定に当たっては、具体的で分かりやすい内容になるよう努めたとの回答がありました。これについても、前回推進会議でお示ししました次期計画策定の方向性において、次期計画は「要点を視覚化・可視化した道民が理解しやすい形で作成する」こととしており、今回提示した骨子案は、これに沿と作成していますが、今後、関係部局の協力も得ながら、「具体的」といった観点も考慮して、作成していきたいと考えております。

また、最後の段の意見聴取ですが、前回の計画策定に当たり、パブコメ以外にも多様な意見を聴取する手法を取り入れても良かったという回答がございました。

今回の策定に当たりましては、今後、意見聴取の具体的な方法について検討し、別途、提示させていただきたいと考えております。

なお、２ページ目以降は、感想なども含め、回答のあった内容を全て記載している一覧でございますので、後ほど御覧いただければと思います。説明は以上でございますが、骨子案第２章の９ページの木の図や、資料５の第３章に記載する「めざす未来社会の姿」については、特に皆様の御意見を頂きたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【川村座長】

一気に説明していただいたので、資料も確認しながら進めたいと思いますが、今回、議事の内容にもありましたとおり、全体について御意見を伺いたいのですけれども、全部まとめてしまうと大変なので、小分けに御意見を伺っていきたいと思います。「はじめに」と「第１章」、それから「第２章」、「第３章」、「第４章」と「その他全般」という形で、４つに分けて順番に聞いていきたいと思います。今回はオンライン開催ですけれども、時間は少し余裕がありますので、初めに先陣を切って何か言いたいということがあれば、手を挙げていただいて、特に、先陣を切ってまでという方がいないのであれば、順番に当てていきますので、せっかくなので、一言ずつ、小分けに聞いていくので、短めにコメントを頂きながら、まとめていきたいと思います。

それではまず、最初の「はじめに」と「第１章」につきまして、御意見の先陣を切りたい方が

いらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。なければ名簿順で、いつもどおり順番に当てていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、資料２を見ながら、順番に一言ずつ御意見を頂きたいと思います。まずは、朝倉委員、何か御意見があれば、よろしくお願いいたします。

【朝倉委員】

私からは、特に第１章に関しては、意見はないのですけれども、全体を通しての感想というかパワーポイントがすごく読みやすくなって、色合いもすごくいいなという感想を持っております。印象がすごく優しい雰囲気で、道民の皆さんも読みやすいという感想を持ちましたし、文章がとても読みやすく、ちょうど良い長さになったという感想を持ちました。以上です。

【川村座長】

続きまして、入澤委員、何か御意見ありましたら、よろしくお願いいたします。

【入澤委員】

私も、第１章については、意見は特にないかなと思いましたが、１つ質問になるかもしれませんが、４ページの年降水量の図の変化について、これは 20 世紀末と比べて年降水量が 40%増えているということなのか、それとも 40％減っているのか、どちらを表しているのでしょうか。

【村田課長】

はい、４ページの右側の図については、20 世紀末に比べて増えているという説明になっています。

【入澤委員】

降水量が 40%増ということですか。

【村田課長】

おっしゃるとおりです。ただ、これは、図が少し分かりにくいために、御質問を頂いたということと思いますので･･･。

【入澤委員】

そうですね。それと、ここの図は、出典元からそのまま持ってきているのかもしれないですが、降水量を表すのなら、青色に変更した方が分かりやすいかと思います。

【村田課長】
はい、ここの図は所管部局とも相談して、より良いものを用意したいと思います。ありがとうございます。

【入澤】
それから、４ページの枠が前後の３ページ、５ページとズレているように見えます。

【村田課長】
はい、ありがとうございます。こちらも、調整したいと思います。ありがとうございます。

【入澤委員】
以上です。

【川村座長】
それでは、続きまして、佐々木委員、よろしくお願いします。

【佐々木委員】
第１章については、特に意見はありません。ただ、次の第２章のところの部分と関係していくのかと思うのですが、直面する課題と情勢変化が、次の解決策のところに、どのように反映されていくのかが、少し不整合かなというのは、具体的にこうということではないのですが、ここでせっかく提示した直面する課題と、解決策のところの整合性が、不整合な部分があるなというのが気になりました。
それから、色合いなどが、すごく柔らかい感じで、今回はとても良いなと思いました。以上です。

【川村座長】
続きまして、中元委員、よろしくお願いします。

【中元委員】
私も特に指摘するようなところ、ここは変更した方が良いというところはないのですが、せっかく第２期の新しい取組を始めるので、例えば、先ほど御意見の出た図などは、刷新した方が良いのではないかと思います。和田委員から御意見のあった第２章の７ページと８ページの図を対比すると、例えば、７ページの取組方針の図では、「データの利活用」が「暮らし」、「産業」、「行政」の上にあり、基板整備が下にありますが、８ページの図では、「データの利活用」も「基盤整備」も「暮らし」、「産業」、「行政」の下にあります。こういったところも、整合性を取った方が、分かりやすくなるのではないと思いました。以上です。

【川村座長】
確かに、若干見にくいところはあるので、そこは、修正いただければと思います。次は、西野委員よろしくお願いします。

【西野委員】
骨子案第１章については、概ねよろしいかなということで了解しております。ただ全体的に１点気になったのが、事前の意見書の方でも書かせてもらったのですけども、全体的にＤＸという文言、表現が第１期にはあったのですけども、今回はまるっきりなかった印象を受けました。
これまでは、ＤＸ進めていく上では、データを導入することも必要なのですけども、それ以上にやっぱりこのＸ、トランスフォーメーション、そうしたことが非常に重要ということで進めてきた経過もあります。また、道庁のこの事務局さんもＤＸ推進課というＤＸという名称を使っていますけども、今回この骨子案の中で、ＤＸという表現が表せなかったのが、意識的なのか、と感じたところであります。以上です。

【川村座長】

続きまして乗木委員、御意見ありましたらよろしくお願いします。

【乗木委員】

はじめにから第１章の間で、私も特にここに関しては、大きくはないのですが、Society5.0 という単語、これを使い続けて大丈夫でしょうかねというのは全体見ながら、感じているところでございます。先ほどＤＸ部分の話も絡むのかもしれませんが、これをこのまま使い続けられるのかなというのが気になっているところであります。
あと全体的に、都市部と、地方部という観点で見たときに、北海道の計画を作るとしたときに、都市部を指すのは札幌なのか東京なのか気になっていて、日本の中で見たときに、北海道の立ち位置を意識したような構成にするべきかと、これを目指す未来社会の姿のところでお話したいと思いますけども、そんな印象を持っているところでございます。以上です。

【川村座長】
他に御意見ある方いらっしゃいますか。とりあえず一旦よろしいですか。私の方からもちょっとまとめめいたことをコメント差し上げたいと思います。
まず、先ほど、乗木委員からもありましたけども Society5.0 という言葉がいつまで使えるのかというのは、これは確かに私も気になっているところでして、今回計画立てて、５年

ということなので、５年後 Society5.0 という言葉を使って説明するということになるのかなというと、また時代が変わるのかなというような意識ではありますけれども、今の段階では、代わりになるような言葉はなく、急には代えられないと思うので、少し今回、Society5.0 で進めるにしても、次回以降はちょっと違った言い方・概念・スローガンみたいなものが出てくるということは、頭の中に入れておく必要があるのかなと思いました。

それから全体のトーン、委員の皆様方からも分かりやすくなったと、私もすごく分かりやすくなったとは思うのですけども、一方で、例えば図のところが、字が小さすぎたりとか２ページの図とか４ページとかは、字が小さかったりするので、ページを増やすのかどうかですけれど、本文の字はせっかく大きく見やすくなっているので、載せるのであれば少し図は調整したほうがいいのかなと思いました。

それから、はじめにの、策定趣旨のところで、これを聞いたときは、そのとおりだと思うのですが、そもそも大前提として、Society5.0 と考えるということが何故必要で、それは道民の方々にとって、どう明るい未来に繋がるのかという、策定趣旨はあのとおりなんだけど、その前提となるのはみんなに明るい未来をみんなで作っていこうということが、前提だと思うんで、何となく出だしとしては、これを作りましたよということは、何のためにみたいなことに当たる時間があったほうが、いいのかなと。Society5.0 そのものが、この構想そのものが目的ではなくて、これは手段であって、目的というのは、社会情勢の変化に合わせて明るい未来を作っていくことだと思うので、そんな出だしになると、スッと入ってきやすいのかなと思います。

それから、第１章のところで、これ（４）の経済社会情勢の変化のところで、ここに書いてあるのはそのとおりなのですが、この他に、道を取り巻く経済社会情勢の変化を考えると、例えば一つは、コロナ禍が明けて、今、ものすごくインバウンド・外国人観光客が来ていて、この札幌中心部なんか大分雰囲気が変わってきたと思うのですけども、外国人が来るというのが外部的な国際情勢の変化ということで、不安定なんて書いていますけども、それ以外に外国人が来てくれるとことも、やっぱり経済社会情勢の変化かなと思うので、それを入れてもいいのかな。それから、それにも少し連動するかもしれないですけども、北海道でいうと一次産業と食がメインで、最近ちょっとずつ輸出とかも増えてきていたり、当然付加価値高く外に売ってくということも重要なので、そこのところは上手に使いたいところでもあり、一次産業に合わせて、それの輸出ということもちょっとずつ活発化しているという話も織り込んでもいいかな。

あと、もう一つですけども。これは、経済社会情勢の変化に入れる方がいいのか地球温暖化のところに入れるのがいいのか分かんないのですけど、例えば今、函館界隈とかにイカが取れなくなるとか、農作物は気温が上がってというのがあるんですけど、それ以上に、水産物が取れない、今年はサンマが少し獲れるようになってきてはいるみたいですが、去年は全然獲れないとか、シシャモが取れない、サケが上がらない、結構水産物の変化はすごく大きいので、これもやはり北海道を取り巻く情勢の中では大きなものなのかなあと思うので、温

暖化のところか、経済のところがいいのかわからないのですけど、これを見ると、そのあたりも、頭に入れておくべき情勢かなということで、可能であれば整合をとるという形で追加してもいいかなと思いました。

とりあえず骨子案のところで、私も気づいたところがそのあたりなので、今、委員の皆様方から頂いた意見と、私のポイントを踏まえまして、次回までに反映いただければいいのかなと思います。他に何か大丈夫でしょうかね、よろしいですか。

【川村座長】

続きまして、今度は、第２章７ページ以降になりますけどもこちらについて、また御意見を伺っていきたいと思います。あと整合性のところは全員、幾つかご指摘いただいておりますけれども、それ以外含めて、御意見、また、先陣切ってということがなければ、また名簿順に聞いていきたいと思いますけどよろしいでしょうか。

それでは小松川委員、よろしくお願いします。

【小松川委員】

ありがとうございます。私は事前に見させていただいて一通り問題なく、ということで、回答させていただきました。第２章も含めてですけども、今までずっと議論されたことが反映されているので、今のところは、特にコメントがないということで皆さんのお話聞かせていただいた中で最後に少しお話しさせていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【川村座長】

何かありましたらまたよろしくお願いします。続きまして朝倉委員何かあれば、よろしくお願いします。

【朝倉委員】

私からは、第２章に関しても事務局の方で修正された、この微修正です十分ではないかと考えておりますので、第３章以降で御意見いろいろ言わせていただきたいと思います。以上です。

【川村座長】

続いて入澤委員何か御意見あればよろしくお願いします。

【入澤委員】

根本的な話になってしまうかもしれないですけど、このデータの利活用の部分、先ほど、前担当の方もここはやっぱり大事だという話ですけど、何かこう具体的に何か出来ることと、ワーキンググループとかでも難しかったのかなという気がしていて、ここが１丁目１番

地的な幹の真ん中というところというのが、僕としては何か変えるというかもう少し肉付けしてもいいんじゃないかなと思っているんです。

もっとデータを活用することが本当に幹なのか、若しくはＡＩを活用することとかが幹だったりするんじゃないかなとか。その当時は、確かにオープンデータが宝物だとかというのがあったけど、現時点でそこまでデータに対する何かこう、未来図があんまり皆さん見えてないんじゃないかという気が僕は若干しているんですけど、その辺、議論出来ればと思いました。

【川村座長】

ここはちょっと、私も同じようなことを思ったので、また、私も最後でコメントしたいと思います。

それでは佐々木委員。何かございましたらよろしくお願いします。

【佐々木委員】

私もこの、図の中でデータの利活用が木の幹のところにあるというのがちょっと、イメージに合わない。

逆にくらし・産業・行政という枝とか花があるのであれば、この幹になるのは、右側の基盤整備の横に書いてあるＩＴリテラシーとかデジタル人材の確保とか育成が幹であって、下側の土のところはあくまでもその情報通信基盤というようなところなのかなと。

データの利活用は、それぞれの暮らしとか産業とか行政のところのさらなる花とかそういうイメージなのかなと思うので、この４番のデータの利活用が、木の幹にあるというのは私のイメージとしては合わない気がします。以上です。

【川村座長】

続きまして中本委員御意見お願いします。

【中元委員】

すいません。私、見切り発車で先ほど話してしまったので、特にございません。

【川村座長】

次に西野委員、何かありましたらお願いします。

【西野委員】

第２章については特段ないのですけども、実は私もこの木の絵のデータ利活用の部分で、実は５年ぐらい前はまさにこのデータ利活用つまり、データは 21 世紀の石油だという表現を言われていて、このデータの利活用は非常に重要だと言われたんですけども、富良野市も、

つい先日、オープンデータということで約 40 項目出してはいるんですけども、それをどう利活用していったらいいのか具体的なユースケースが見出せないでいる部分で、本来、我々としてもこのデータを幹となって活用したいという思いはあるんですけども、その具体策・未来図があまり見えてないというのが、実情でありまして、気持ち的にはここはしっかりやっていく必要があるかなと思います。以上です。

【座長】
続きまして乗木委員、御意見ありましたらお願いします。

【乗木委員】
今皆さんの意見聞いていて、データの部分は確かにそうだなと、自分の感覚でいくと基盤整備と同じかなという感じはしているので、その点だけお伝えしたいのと、もう１点ですが、７ページにある、一番右側のあらゆる場面で脱炭素化も意識という、この表現がとても気になっています。脱炭素化「も」という意識では駄目なんじゃないかなと思っていて、今結局追い風だと言われているＡＩだとかって言っている話も、結局は電気使うわけです。電気を使うということはそれだけそのエネルギー資源を使っていくわけで、今の状態のまま、その電力量を稼ごうと思ったらどう考えたって脱炭素化と逆の方向に進む可能性があるので、脱炭素化「を」意識しなきゃいけないんだろうと思います。以上です。

【川村座長】
他に御意見ある方いらっしゃいませんか。大丈夫ですか。
私から第２章についてコメントをしたいと思います。まず、７ページの最初のところで、ＩｏＴやビッグデータ、ＡＩの活用ですけれども、何のために使うのかという、そもそもの考え方で、最近私、よく思うんですけれども、例えば、最初本道が抱える課題を解決するんだと、何となく今のＡＩとかＤＸの活用というニュアンスで、人手不足、人がもう対応出来ないから、代わりにＡＩやロボットを使おうというニュアンス、これすごいあると思うんです。それからもうちょっとポジティブというか、前向きになると、これまでできなかったことを、ＡＩを使ってやろうというニュアンス。だけど、本当はもっと考えたいのは、ＡＩを使って、大きく価値創造につなげてくというニュアンスというのは本当は大事なのかなと思っています。
例えば、良い例かどうかわかんないんですけども、よく北海道の、例えば農業分野でのＡＩ活用みたいな話をイメージしたときに、野菜の仕分けをＡＩの画像認識でやりますみたいな話って聞いたことあると思うんです。
このときのニュアンスは、野菜を仕分ける人手不足だから、ＡＩによってそれを仕分ける、そういう活用しようということが、割とこう、分かりやすい事例として、出てくることが多い気がするんですけども、これってすごい精度が良いＡＩが出来ても、その野菜を仕分ける

人を１人置き換えるという話にしかならないから、確かに人手不足は課題なんだけども、それをＡＩ使って一生懸命やったとしても、その人を置き換えるということでいくと市場は全く広がってない。

例えば、同じようなことでもＡＩを使って、これまでうまく分類出来てなかった１級品の何かをＡＩによって見つけるみたいな話で、単に人が仕分けているのを、人手不足をＡＩに置き換える話じゃなくて、ＡＩがあるから、これを仕分けることが出来てそれによってそれがすごい高い商品になるみたいな、これってこれまでの、同じ北海道の中でもそれがあることによってすごい価値が上がったものを作るという、例えば鮭なんかも鮭児とか人がうまく見分けられなくて、ＡＩで見分けるとなったときに、それが付加価値が高いものと出来なかったのだけど、それによって価値が創造されるみたいな、人手不足にＡＩで置き換えますじゃなくて、ＡＩがあることによって、そういう価値が高いものを作り出すという、他にもＡＩを使って、すごい糖度の高いブドウを統一的に採ることによって、これまで作られなかった高いワインが作れるみたいな話って、なかったものを作るという話なので、何かこう明るい未来と考えたときには、例えば人手不足を解決するとか、困ったことを解決するだけじゃなくて、価値創造するというニュアンスがもうちょっと全体的にあっていいのかなと思います。

それからもう一つは先ほども議論ありましたデータの利活用という話が真ん中に、５年前は、どうしてもそういう感じだったのかなと思うんですけど、まずデータは目的ではなくて、何かこう課題解決したいということのためのテクノロジーというのが、やっぱり幹な気がするんです。

今風に言うとやっぱりそこは、ＡＩとかＤＸとか要は全ての産業に関わって、課題解決のためのテクノロジーになるものが幹であって、それを実現するためにデータも一部使うということだと思う。そう考えると、この幹のところに来るのは、もちろん課題解決というか、データの利活用が暮らしの課題を解決するということと、データが未活用というのは、リンクしないので、課題解決と先ほど話していくと、新しい市場創造とか価値創造とかというようなところに繋がるような、技術とか佐々木委員もお話していましたけどそれのための人材みたいなものというのが、真ん中にあってこれがあるからそういうところが進められるということは、もうちょっと違うところに来るようなイメージは、上の 7 ページと 8 ページのところでいくと、ピンとくるのかなと思います。

データの利活用をしたからといって課題が解決されるとは限らないので、それが、表現として何がいいのかというのは、ここで出てこないですけれども、そういうところを、今回 Society5.0 の計画を変えるということであれば、このところはもっと議論を深めて、皆さんがしっくりくるようなものを幹に据えるというふうに書いていいのかなと。

それから、もう一つこれは、さっきのところで、もしかしたら言ったほうがよかったかと思うんですけど、自然災害のところに入っているので、最近例えば熊の被害とか、あと鹿が増え過ぎているとか、それもやっぱり自然災害、これ多分地震とか、洪水とかのイメージだ

ったと思うんですけども、最近は切実に熊の問題とかもあったりするので、この辺りも、さっきと一緒のところなのかこちらなのかにしたほうがいいのかなと思いました。

【入澤委員】

ちょっと、挟ませてもらうと、データじゃなくて、テクノロジーの利活用とするとすごい腹落ちするんじゃないかと、個人的に思いまして、ＡＩだけに限らないと思うんです、今後これらの課題解決するためには。おそらくＧＸだと、例えばペロブスカイトみたいなものや全固体電池だったり、そういう新しいテクノロジーが、こういった課題解決に起因するわけですから、ここをテクノロジーの利活用とすることで結構いろんなものが整理されるんじゃないかと、個人的には思っています。

【川村座長】

はい。まさにそうだと思いました。他に御意見よろしいですかね。

また、これで骨子案を調整いただいて、また議論する時間もあると思うので、これを踏まえて可能なところを修正した方向にうまく持っていっていただければと思います。

続きまして、第３章記載イメージのところで、各具体的な内容はこれからなのでここはまずイメージ・表現・分かりやすさみたいなところを中心に少しコメント頂ければいいかと思います。順番に小松川委員御意見ありましたらよろしくお願いします。

【小松川委員】

第１章、第２章の皆さんの議論も踏まえて、第３章、私は前回も人材育成って大事だと思っていて、多分その辺の施策が具体的に出てくるのがここだろうなということで、大いに期待しています。

ここをしっかりやっていただくことによって幹も太くなるでしょうし、得られる果実も増えると思います。具体的施策、特に人材育成に関わるようなところをしっかり入れて頂くことがすごく重要だと思っています。

こういう医療・福祉で主な施策とか書いてあるところもすごく具体的に書いていただいて、いいなと思いました。こういうものがたくさん出てきていただいて、そういうのを議論することが大事だと思いますし、そのときに現場の意見ってよく聞いていた方がいいと思います。北海道広いのでなかなかいろんな人の声を聞くのは難しいと思うんですけど、例えば特に人材育成って札幌だけじゃなくていろんな地方も含めてやっていますから。あと小学校・中学校・高校とある、社会人もそう。そういういろんな人の意見をちゃんと聞きながら、どこまで施策に入れられるのかというのは、すごく楽しみにしています。

もしそういうところで、例えば教育機関の声とか必要であれば、声かけていただければ、いろんな声拾ってきますので、ぜひ連携しながらいいものを作ってもらえばいいかなと思いました。内容的には特にこの人材育成の最初のところの方向性とかもすごくいいと思っ

て読ませていただきました。以上です。

【川村座長】
続きまして、朝倉委員、コメントあればよろしくお願いします。

【朝倉委員】
いくつかありまして自由にお話をさせていただきたいと思うんですけれども、私が感じたのは教育の分野のところで、色々デジタルデバイスを使っていろんな教育が出来るようになったことはすごくいいことだなと思っているんですけども、現在、やはり不登校の子供たちが、2023 年度は、道内だけで 1 万 4000 人ぐらいいるというニュースもあったりと、すごく問題だなと感じていまして、そういった子供たちにデジタルデバイスを活用して、もっと人と係わり合いが出来る場を提供したり、社会との接点を作るというところができてくると、将来、自分が社会に関わっていけるとそういった子供たちの道が開けるかなと思っています。
教育委員会でもいろいろ取り組みをしているんですけれども、もっとデジタルデバイスを積極的に地方でも活用して、解決に向けての取組を役立ててもらえるのではないかと思っております。
それが 1 点で、もう 1 点はまた教育の分野ですけれども、北海道広いので自分たちの住む地域のよさをデジタルデバイス等を活用して、国内だったり、世界に発信することで、まちに人が集まってきて活性化に繋がったりとか、また自分自身、故郷に愛着を持って、そこに定着したり、またはいつかまた戻ってくると、そういった子供たちが増えていくといいのではと感じております。
長くなって恐縮ですけれども、あと、もう少しありまして、どうしても計画を見ていくとすごく大きなお話も多くて、やはり自分自身が母親であるので、母親目線で見ていくと、もう少し現実に道民の皆さんが、何を求めているかなというところをちょっと考えていたんですけども、私としては子供たちが安心して、外で遊んだりとかするといいなと思っていまして、先ほど先生からもクマの話もありましたし、あとは防犯に関してすごく、これから後５年もどんどん町は、不安になってくる部分もありますので、そういった部分にやはりＩＴを活用して、市民の方が安心して安全に暮らせる、そういった北海道になっていただきたいなと感じております。
あともう 1 点、先ほども脱炭素化の話も出ていて、これからまたもっともっと増えていくと思うんですけれども、太陽光であったり、洋上風力とかが、環境に与える影響がどの程度かというのがすごく最近やっぱり気になってきていて、やっぱりそのＩＴ技術とかいろんな技術が出てくることと、やはりその環境もちゃんと共生していかなければいけないのかなと感じていますので、そういった影響がないかどうかというのをしっかりこうデータとして一元管理するなどして、ＩＴなどを使って、より環境にもいいものを提供出来るような、

そういった未来になっていっていただきたいと思うのが、ちょっと夢物語なんですけれども、私からの意見になります。以上です。

【川村座長】
続いて、入澤委員お願いします。

【入澤委員】
今回資料５のところの表のところも含めてこの第３章に載るという認識ですよね。なので、ここの部分でいろんな修正案とか追加案とか見させていただいて非常にアップデートされていいんじゃないかなと思っていますと、やはり、さっきの話なんですが、データの利活用のところだけがふらっとしているので、ここをもう少しテクノロジーと置き換えるのであれば、ＡＩをどうやって使っていくのかとかＡＩ使える人材をどう育てていくのかとか、そうしたところの具体的な施策なんかをここに盛り込んでいくといいんじゃないかと思っています。
データ利活用、やはり手段としてはあると思いますので、先ほど川村先生おっしゃったようにそれぞれの産業の中に、まずこういうデータを使いますみたいな形で入れていくぐらいでいいんじゃないかと個人的には思っています。
あと、全般的にいいんですけども、今回脱炭素の部分も非常に大きなファクターかなと思っていて、その辺のところが効率化とかそういったところはあるんですけども、テクノロジーを使ってどうやって脱炭素していくか、この３行の辺りとかに少しあるといいのかと思っています。
特に地場産業だったり、やはりその辺で、農林水産となかなか難しいかなと思うんですけど。そこが思ったところです。以上です。

【川村座長】
佐々木委員お願いします。

【佐々木委員】
第３章の産業のところについて、是非、圧倒的に多い民間の、小規模中小企業についてのいろいろな施策も記載していただきたいと思っていまして、民間の中小企業をもちろんＡＩの取組とか、データの利活用とか、そういったところをやらないといけないという危機感を持っているんですが、人手不足のためにどうしても学びの時間を十分にとることが出来ないという事情があります。
以前であれば、私も演習系のセミナーとかをやっても中小企業の方たちが結構出てきていただいていたんですが、最近はもう演習系のセミナーは人が集まらなくて、オンラインの座学的なセミナーは、それなりに人が集まるんです。何かやりながら聞いているということ

で、情報収集は出来るけれども、実際の演習というか、自分のフィールドに帰ったときに、実施できるようなところまで行けていないんじゃないかなという危機感があります。

そういった意味ではアカデミアの方も、人手不足と言われちゃうかと思うんですけれども、ぜひ民間をフィールドとして、クロスアポイントメント制度などを使って、民間のフィールドに先生たちに出てきてもらって、一緒にＯＪＴでやっていく、そういう施策があったらいいなと思っていまして、そういった部分をぜひ記載していただければなと思いました。以上です。

【川村座長】

続きまして中元委員、御意見をお願いします。

【中元委員】

これは記載のイメージということでお話させてもらえば。書かれていることは、ここはこうした方がいいとかいろいろ意見はあるものの、やはりここの、例えば、「めざす未来社会の姿」というところについても、これ、北海道の特性をどう表現するかもすごく大事なのかなと思っていて、いわゆる日本全体の課題と北海道の課題は間違いなく違うと思うので、このあたりをどう表現していくかは、すごく大事かなと思っているのと、やはり主な施策、本当に一般的な、業界でも話されていることではなくて、それを踏まえて北海道としての課題にどうマッチするかという形のものを記載していく、先ほど佐々木委員からもお話あったとおり、例えばこの医療福祉でいうとどうしても医療の方に寄り過ぎているところもあったり、また大規模で出来るような事業所に特化してしまったりということでなく、小さな事業所だとか、また地域性というところに踏まえた上でも対応できるような、施策をどうイメージさせるか、また施策として作るかというところもすごく大事かと私自身は感じました。以上です。

【川村座長】

続きまして西野委員、コメントお願いします。

【西野委員】

第３章の北海道 Society5.0 の実現に向けた施策の中で目指す未来社会の姿としての意見ですが、私の方から行政の分野において、２点ほど、事前の意見書かせていただきました。

まず一つ、自治体現場において、事務的な作業とか非常に多く、そうした分野に、デジタル技術ですとかＡＩを活用することによって業務の効率化を図ると。そして自治体現場において余力を作って、その余力を、直接、市民との対話とか、また地域課題に対する政策立案、少しでも自治体職員の業務を振り向けることによって、Society5.0 が目指す人間中心の社会に少しでも振り向けると、事務的なもの、作業的なものをこうした未来技術を活用す

ることで、一つ書かせてもらいました。

また、二つ目、比較的、自治体の現場における政策立案が、いわゆる一般にＫＫＯと言われる、例えば、これまでの経験値とか、勘とか、時の首長の思いつきで、政策が立案される場合がありますけども、客観的なデータに基づいて政策を立案する、いわゆるＥＢＰＭ、ＥｖｉｄｅｎｃｅＢａｓｅｄＰｏｌｉｃｙＭａｋｉｎｇ。こういったものが、この５年間の中で自治体現場においても、浸透していくことが、自治体現場における「めざす未来社会の姿」として必要と感じて、２点ほど、地域として書かせていただきました。

また、川村先生の本の中で、10 年後のハローワークで、公務員現場の中では、４割はＡＩの方に振り向けるのではないかと書いてありましたので、こうした技術を活用しながら、現場の中でも余力を作っていければいいと思っております。

【川村座長】

続きまして乗木委員お願いします。

【乗木委員】

ここの部分が、資料５のそれぞれの項目の議論になるかなと思っていたのですが、細かい話ばかりになってしまうので、後から送ります。

冒頭、お話しした内容と被るのですが、例えば、医療福祉で遠隔医療、遠隔診療の発展による云々は、１期計画であったところですが、北海道で目指すべきは、都市部の専門医が北海道においても活躍出来る環境を整えることが大事ではないかと思います。

都市部の専門医が地方の医師、例えば、東京が都市部だとして北海道が地方部だとすれば、その逆が自由に出来るような環境を整備するのも大事なことと思います。

それと、教育でオンライン学習という言葉が出てきますが、多分、オンライン学習にこだわることはない。デジタルデバイスを使った教育の仕方が多様化している形だと思うので、その辺の言葉の取り回しを見直したほうがいいと思いました。

鳥獣被害の対策も、いろいろ出てきましたが、これも共生とかいうところを少し意識した話にしたほうがいい気がしています。

５年前だとドローンとかを、ピックアップしていたと思いますが、物資輸送においてどうかということが、いろいろ選択肢が増えていると思うので、特段ドローンに限らず、例えば、ロボット配送だとかも言葉として盛り込んでいければと考えています。

行政面ですが、今後、おそらく公務員、絶対足りなくなってきます。今までと同じように仕事していたのでは。これがＡＩとかＲＰＡとか使って省力化することは当然可能だと思いますけど、それでやっていくと普通にルーティン業務をこなすだけになってしまうので、もっと大胆に広域化したほうがいいと思っています。

市町村の仕事、どこでやっても基本同じなので、同じ仕事をあちこちでやる必要はない部分がもっともっと広めていける。もし合併が進まないのであれば、そういった改革を進めて

いく。そのベースになるのが、テクノロジーを使う形を考えていくべきだろう、と思うので、そういったものが乗っかってくると、指標としてはいいのかなと感じます。あと細かい点は後程お送りします。

【川村座長】
改めて全体通して、御意見ある方いらっしゃいますでしょうか。よろしいですかね。

【川村座長】
私からもコメントしたいと思います。
第３章のところ、細かいところは置いといて、目次でいうと先ほどの話と連動するのですが、データ利活用となっていますが、大事なのは課題解決のために、新しいテクノロジーをどう使うのかであって、その中でデータが必要であれば、データを使えばいい話なので、データ利活用したから暮らしがよくなるかとか、産業がよくなるかって、そこは論理の飛躍があるので、そこは目次から見ても課題解決が暮らしの向上、産業の向上に繋がることが見えるようなまとめ方、タイトルにしたほうがいいのかなというのが第３章の大きなところ。
それから９ページの資料でいくと、これが前回の、青森（県の計画）、分かりやすく作っている図があって、それを参考にまとめようという趣旨かなと思います。
この推進計画の骨子案、出来上がった資料をこの先考えると、これが、一番分かりやすく、注目して見られるところだと思うので、いかに、いいものを作るのかは、大事だと思います。
そのときに、いくつかありますが、１つは、例えば、これ上の目指す未来社会の姿、「住み慣れた地域に誰もが質の高い医療を受けることが可能」という表現が気になります。僕も、ついついこういう表現をしますが、一般の人が分かりやすい言葉だと、「質の高い医療を受けられる」とかいう方がやわらかくて、スッと頭に入ると思います。　受けられることが可能とか、「健康寿命が延伸」とか、例えばこれ、「健康で長生き」と言った方が分かりやすいとか考えると、何か表現が小難しいから、すっと頭に入るような表現にしたほうがいい。
そのときに、さっき、ＡＩを使った案もありましたが、例えば、「こういう人がこの資料を読みます。その前提でこういう内容を表現したときに、一番分かりやすく、どういう文章を書くといいですか」とお願いすると、何とかが可能とか小難しい感じよりも、受けることが出来るとか、そういう表現に直してくれると思うので、ＡＩを使ってこういう読者を想定したときに一番頭に入る表現に書き換えてくださいと、うまく活用して、柔らかくスッと頭に入るような表現にするといいと思いました。
もう一つ右側にイラストをうまく使ってイメージ出そうとことでいろいろなイラストを使っているのかなと思いますが、これもＣｈａｔＧＰＴとかの新しいバージョンで左の内容を考えたときに、これをイメージしてくださいと、というと、結構、図を作ってくれるので、そのまんまじゃなく、最終的に手を加えてもいいのですが、何か、分かりやすいイメージ図を作るのは結構難しいことなので、ＡＩをうまく使ってその素案みたいなものをたく

さん作って、それをベースに、リライトするのか、手を加えるのかありますけれども、そういうことを、せっかく、この推進計画作るときもＡＩ活用しましょうということで、そういうことをやると凄く分かりやすい資料が出来るのかなと思って、ぜひ、そんなのを駆使しながら、スッと頭に入るような、目玉になるような表現をうまく作ってくれたらいいかなと思いました。

【川村座長】

続きましては、第4章とその他全般のところで御意見ありましたら、よろしくお願いいたします。そこに限らず、これで締めのコメントということになるので、何かおっしゃりたいことも含めて、一人ずつ聞いていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

順番に、小松川委員よろしくお願いします。

【小松川委員】

大変、皆さんの議論を聞いて、非常になるほどと思いながら聞いていました。

最後せっかくなので、一つ、この間あった事例をご紹介しつつ、まとめたいと思います。

これは、北海道教育委員会さんが主催していただいたので、ぜひデータをとっていただければと思うのですが、先日、高校の先生向けに数理データサイエンスＡＩ教育のセミナーのときに、大学でどんなことやっているかをぜひ知ってもらおうと、本学と、北海道医療大学、医療系、それから北星学園、文系、文系理系医療系の先生も入って、それから経産省の方に来ていただいて、文科省の高等教育の方にも話をしてもらって、挙げ句の果てにラピダスさんにも来てもらって、将来こんな人材がいるという話をした。

100人ぐらい、高校の先生集まって、オンラインで100人の高校の先生が集まってくれた。アンケートも取ったときに、やっぱ日頃聞けない話が聞けてよかったと。

数理データサイエンス、どうやって教育したらいいか全く右も左も分かんなかったけど、すごく方向性が見えましたみたいな、何かそういった軸を現場の先生方が共有する場がない。そういうのをやっていただけると、日頃人材育成やっている人たちにとっても、とても貴重な場だったと思っていますんで、今日の話を聞いていても思うんですけど、テクノロジーの中でも、このデータ活用とＡＩ運用って、何がすごいか、誰かが特別に使うものじゃなくて、誰でも使えるようになってきたのがすごいところだと思う。

だから、いろんな形でサービスが作れるし、新しい価値が作れる。それは札幌だけじゃなくて地域でも作れる。今高校の先生も中学校の先生も一生懸命そういう人材育成やっていると思う。

そういう誰もが使えるところをどう、北海道全体で目指していくかを考えるのが大事で、そういう意味でさっきの（概念図の）幹とかの絵なんかは、私はあれはあれでいいのかなって。幹にデータ活用とかＡＩ応用があって、そういうものをしっかりやったことによって、川村先生がおっしゃったような、実がなるところ、価値創出をしていくっていう方向感がよ

くて、最後、人材育成って根っこだと思う。
そういった土壌を育てることから、考えて、計画をまとめていただければいいなと思いました。
先ほどの教育委員会の話ですけど、ラピダスさんがその時に、「ラピダスさんどんな人材必要なんですかって、そもそも半導体人材ってどんな人が必要なんですか」と聞いたら、「いやいやそんな難しくないですって、基礎基本と協働性です。特にいろんな人たちと関わる力が必要です。」という話をしていました。
そういったことが出来る土壌を、北海道として、いろんな形で作っていただくことが大事だなと思っています。そういったことを反映するような、計画にしていただければ、いいかなと思っていました。すいません雑駁ですけど以上です。

【川村座長】
貴重な意見、ありがとうございました。
続きまして朝倉委員よろしくお願いします。

【朝倉委員】
私も先日あったこと、感想を含めてですが、たまたま先日、大きな橋を作っているところを見せていただいたのですが、その橋を作るにもＶＲの技術を使っているということで見せていただいて、ＶＲを利用していることを知ったのですが、他にも、大きな建物の建設現場に行ったときにも、普通は職人さんが書いているものをロボットが書いているとか、ひもを結んでいるというお話を聞いて、建設とか建築の現場でもかなり効率化が図られていて、ＩＴの利用が進んでいるのを実感してきました。
これからも高度化していくことで、安全に人手を減らして、工期も短く、また工事も、確実に実現出来るとようになるというのを感じて帰ってきたんですけども、一方で、何でもかんでもＩＣＴを活用するということではなくて、やはり人の手も必要だという話も聞きまして、無理にＩＴ化する必要はないなと感じておりまして、今回のいろいろ目指す未来社会の姿にも、すごく夢物語も書くというのも大事なんですけれども、本当に必要なところで活用していくことが、やはり使う側にとっては一番大事かなと思いますので、何でもかんでも全部ＩＣＴ化ではなくて、そういったところを盛り込んでいただけたらなと感じております。

【川村座長】
続きまして入澤委員お願いします。

【入澤委員】
少し土台を崩すような発言をしてしまって、事務局の人は大変だなと思いながらも皆さ

んいろんなことを言うんですけど、全員のことを聞いてしまうと、オフバランスなところもあると思うんで、そこは、適宜、スルーするところはしていただいて大丈夫かなと思います。

私が先ほどのデータ利活用、テクノロジーの活用でいいんじゃないかという話もしましたけれども、その上段に未来技術という言葉があって、こっちの方が何かしっくりくるかなという気も若干しました。未来技術の利活用と、未来技術を育てるというか作るためにどういう人材が必要なのかとか、どういう教育をしていかなきゃいけないのかというところが、土台にあるというのは、何かしっくりくるのかなと思ったりもしています。

全体的には、前回の通しの部分はあるものの、やはりこの５年間で相当いろいろ変わっていますので、大胆に変えるところは変えていいかと思っていますので、いろいろ事務局の方々大変だと思いますが、少しこういったところ、我々も産業のところとかは、１民間企業として、少し意見も、もう少し肉付け、さっき佐々木委員がおっしゃっていたように、もうちょっと中小企業に目線の、こういうこともあるというところは、私も少し意見出しとか、この後したいなと思いますので、よろしくお願いします。

【川村座長】

続きまして佐々木委員よろしくお願いします。

【佐々木委員】

先ほどの最後の第４章の図のところで、ぜひ企業と大学、研究機関の方に、ラインを入れて欲しいとお願いをしましたが、中小企業も今スピード感を持っていろいろとやらなければいけない時代になっているにもかかわらず、なかなか人手不足で情報収集も上手くいっていないと考えると、そこの部分をもう少し、民間からも寄っていかなきゃいけないのですが、出来れば大学からも、研究機関からもぜひ直行民間の方に少しすり寄ってきて欲しいという思いがあります。

それから、私たち、コンサルタントもそうですが、待ちの姿勢ではいけないと思っていまして、忙しいので待っていても、こういう窓口ありますよ、こういう情報提供していますよと言っても、なかなか中小企業から情報取りに来たり、窓口に相談に来たりすることが、少なくなっていると考えると、私たちコンサルタントも企業に出向いて行って、どういう課題があるかとか、こういうものについては、こんな解決事例がありますと積極的に提供していかなければいけないと思っていまして、そういった事例を集めるとか、中小企業に対する情報発信をするためのネタといいますか、元の部分を、ぜひ、道庁さんにやっていただければありがたいと思いました。

【川村座長】

中元委員よろしくお願いします。

【中元委員】
第二期の計画、非常に楽しみにしています。
その上で、私は思うことが一つありまして、せっかく計画作るに当たって、今委員の方々積極的にいろんなお話いただいていますが、各業界に精通する方もいらっしゃいますし、また実情を見ながら、その織り込んだ計画をいかにして作るかが今本当に大事なのかなと思っています。
どうしても計画、一部の方々で作られていくところで、致し方ないところがあるのですが、道民の声だとか、その業界の抱えている課題をどう解決するかとか、また、未来に対して希望の持てるものを作っていく意味合いにおいては、いろんな方が参画していろんな意見を集約した計画を作ることはとっても大事なのかなと。今はそのチャンスかなと思ったので、そういったプロセスも考慮した上で、今回の計画を作っていただければと思いました。

【川村座長】
続いて、西野委員、よろしくお願いします。

【西野委員】
この計画を作って推進していくことで、経済が発展していくとか、また、様々な北海道内の社会課題が解決していくとか、そういったことが両立して、Society5.0 の目的である人間中心社会にしていくといったことが少しずつ見えてくればいいかなと思います。
また、未来技術を活用するだけでは、なかなか活力が生まれないので、未来技術を活用するための人材育成ですとか、ＤＸのＸの部分、デジタルを導入するだけではなくて、このＸはトランスフォーメーション、しっかりして変革してくことによって、本当に活力ある北海道が生まれていくと。そんな形でこの計画は、作られていけばいいかなと思います。
本当にこれらの意見を取りまとめる事務局さんはいろいろとご苦労あることと思いますが、我々様々な面で意見を出して協力していきたいと思います。

【川村座長】
乗木委員よろしくお願いします。

【乗木委員】
今日なんかいろいろな意見出て勉強になりました。
最後に一つ、気になっていることがありまして、資料４、追い風としたい５つの要素とあります。
いずれも確かにそうだよねという話、いろいろこの辺の情報を聞いているんですが、例えば、この計画を出すときに、こういったものがあるからという話で出したときに、どうしても北海道で推進しようとすると、例えば、風力発電もそうですけど、環境に配慮しているの

かだとか、バラ色の話をしているけれども、それによって北海道の良さがなくなるのではないかという意見も多分出てくると思います。それに対する備え、そこがそういう形じゃないってことは、計画を表に出すときには整理しといた方がいいと思っています。

同ときに、未来技術を使って、北海道の明るい未来を作っていこう。とってもいい話ですが、当然これに関してお金もかかることですし、今の経済規模で考えると、たぶん道内で生き残れるのは札幌だけじゃないかと、最近ずっと思っているところであります。

本当に我々道民が、皆幸せに暮らせる。それこそ住みなれた所でずっと暮らし続けられるのは、どうやって実現していったらいいのかを、こういったものを使いながらこういう形で今後は暮らしていけるだとか、そういったところを、上手く道民の皆さんと同意がとれる、合意がとれるような計画になっていけばいいなと思います。

【川村座長】

他にコメント等ある方いらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

よろしいですか。

【川村座長】

10 ページ、第４章は計画の推進ということで、道の役割がここに書かれているので、改めてどんなことが大事かと考えると、一つは、人とＡＩの若しくは最新テクノロジーで出来ることの役割分担は、これまでは、どこでライン引きしたらいいのかなとか、何が人がやらなきゃいけない、何がＡＩに任せられることなのかが、これまであんまり分からなかった。もやもやとしていたところが、ちょっとずつ、その線引きとか役割分担が見えてきているタイミングは、今なのかと思うと、そういうことを意識しながら、何をすべきかを、少し考えると、受け入れられやすい。何でもかんでもＡＩに仕事取られるみたいな話もなりかねないので、そういうところを意識しながら、大事なのは、道の役割の一番下にも書かれていますが、未来技術の実装そのものが、道が主体となってやるというよりも、それを使うときに、必要な規制とか社会のあり方とか、補助とか、そういう未来技術そのものじゃなく、その外側でそれをどう使っていくのかを、きちんと上手にリ・デザインしていく。

ここすごく大事だと思っていて、これまでの社会、こういう新しい技術がない中で、いろんなルール化されてきたとか、やり方が決まって固まってきたものが強くて、なかなかこういう技術を導入していくことが進まないことがあるので、そういうところをリ・デザインしていくことを、本格的に取り組むという姿勢を示すことが、道の役割かと思っています。

それからもう一つは、たくさん新しい技術の話をしていますが、私、たまたま先週、カナダモントリオールに行って、ＡＩの国際会議に参加して、世界各国の研究の状況とかウオッチしてきたんですが、そうするといろんなことがわかるし、なんとなくネットの情報でこうかなと思っていたことも、リアルでいろんなことがわかります。

昨年も深圳に行って、いろんな最新テクノロジーも見てきましたが、そうすると、世界に

出ていくと、ここでいう未来技術とか新しいテクノロジー、ポンポン進んでいるものがあるが、なんとなく議論が全部北海道の中だけで完結して、北海道の中だけで考えて、北海道の中だけで出来ることで、全体的にこのSociety5.0の議論をされているのかなという印象もあって、世界最先端の技術だったりとか、キャッチアップして、どう連携していくのかなということも、一方で、すごく重要なはずなので、限られた予算等、リソースの中でそういうことがどこまで出来るのかはありますが、頭の片隅にこういうことをやろうとする世界最先端、Society5.0 を考えるんであれば、これに繋がるようなパイプはないといけないのではないかということは、思うところでした。

【川村座長】

皆さんにいろんな議論頂いたので、今後いろいろまとめながら、Society5.0 の新しい骨子案をさらにブラッシュアップしていければいいのかなと思います。

それでは、大矢次世代社会戦略監から、これまでの議論をいろいろ振り返って、一言お願い出来たらと思います。よろしくお願いします。

【大矢次世代社会戦略監】

我々も非常に、先ほど入澤委員からもいっぱい意見もあるけれどもという話がありましたが、極力、皆さんの意見は大事にしていきたいと思っています。

やはり７ページと８ページ、この絵の木の幹の話とか、本当にいろんなお話が聞けまして、我々も頭の整理が出来ますし、我々としての思いみたいなものを、きちんと入れた形で、次回はお示ししたいと思っております。

やはりこういう一つの形を作ると頭の中がすっきりすると思っていますので、ただもう１つ、一番今日思ったのは川村座長に言われましたが、もともとその目的というか、何のためにというところを明確化しなきゃ、一番初めに書いたらいいというのは、我々、どうしても事務的に作業していくとこう陥りがちだなと最初の指摘で思いました。

そもそも我々は何をやっているのか、この計画を作るのは何だというところから始めないと、若干、言葉の作り替えみたいなことに陥ってしまいそうだったのを、今日救って頂いたと思っていますし、この絵をどうするかを真剣に考えるのも、すごく、一番大事なことを言われた気がしますので、短期間集中的に僕らも頭の体操をして、次回には、皆様方の満足とまでは出来ないかもしれないのですが、及第点もらえるものを示したいと思いますので、本当にどうもありがとうございました。本当に皆さんの意見はきちっと反映したいと思います。

【川村座長】

Society5.0 推進計画を議論するのは、すごいお題が広くて、なかなか難しいことだと思うのですが、委員の皆様方、多様な意見頂いて、すごくいい議論が出来ているなと、私自身

も感じております。
事務局まとめるのも大変だと思いますが、ぜひ、委員の皆様方の意見で、取り入れられるところはうまく上手に取り入れて頂いて、いい計画にしていただければと思います。
それでは事務局に進行をお返ししたいと思います。

【石川ＡＩ・ＤＸ推進局長】
川村座長ありがとうございました。
また、皆さん、本日貴重な御意見、御提言ありがとうございました。２時間近くにわたり、お時間を頂戴いたしましたが、ただやっぱりこれだけのボリュームなので、なかなか２時間という時間の中で、言い足りない部分ですとか、いろんな思い、まだ語り足りない部分があるかと思います。今回、また改めてメール等で御意見頂く期間を設けます。
そんな長くはないんですが、来週末ぐらいまでに、また改めてこちらの方から御照会かけますので、ぜひ皆さんの御意見頂ければと思います。
また、今後、当面の予定ですが、委員の皆さんから頂いた御意見を参考にいたしまして、事務局において素案のたたき台、こちらを作成いたしまして、次の第４回の推進会議で御議論頂く予定となっておりますのでよろしくお願いいたします。
それでは長時間にわたりありがとうございました。
これをもちまして、令和７年度第３回北海道 Society5.0 推進会議、終了いたします。
本日はどうもありがとうございました。

以上